

令和5年度 自己評価表

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価（自己評価の結果）		改善策
				令和4年度	令和5年度	中間	最終	
【確かな学力】 児童の学び方の変革を促し、学力・学習意欲の向上を図る。 自分で学習する力 自由進度学習の充実と継続	・児童が主体的に学習する態度を育てる。 ・児童の理解程度や興味関心に応じた学習を展開する。 ・児童一人一人の学びの段階に応じた学力を身に付けさせる。	○個別最適な学びの実現のため、学習計画表をもとに自立学習、自由進度学習に取り組む。児童の選択と決定を大事にし、主体的に学習に取り組む児童を育てる。 ○ICT (Qubena 等) を積極的に活用し、練習量を増やしたり、自主学習を深化させたりする。	・児童の自由進度学習の満足度 (アンケート) ・国語・算数の単元末テストの通過率 平均 80 点以上の児童の割合 ・市教委実施の学力調査における各教科の目標値を超える児童の割合	・満足度 86.8% ・国語 91% ・算数 74% ・国語 77.8% ・算数 85.3% ・理科 84.0%	・学習満足度 85% ・国語 85% ・算数 75% ・国語 80% ・算数 80% ・理科 80%	・学習満足度 87.9% 国語 85% 算数 74%		自由進度学習では、自己選択や自己決定はできている。しかし、つまづいた時の自己調整力をつけていかなければならない。つまづいた児童に対する個への支援を行っていく。自分で学べる力を育てるために、つまづきのあるときは、学びに向かえる環境づくりを行う。(友達との関わり、体験コーナー作り、教材に関わる具体物や図書の展示。)
【豊かな心】 児童の豊かな心と協働を基軸とした人間関係を育成する。 協働する力 総合的な学習の時間の充実	・協働的な体験活動を推進し、協働する力を育成する。 ・道徳教育を充実させる。	○イェナプラン教育を参考にした、中・高学年の異年齢集団での総合的な学習の時間を充実させる。 ○生活科と総合的な学習の時間に地域に密着した探究的な課題を設定し、体験的な異年齢合同学習を行う。 ○縦割りグループによる活動、集団遊び、小中合同の活動等) を積極的に設定する。 ○活動後に振り返りと肯定的相互評価活動を実施する。 ○考え議論する道徳教育を推進する。	・自分のよさがわかる児童の割合 ・友達のよさがわかる児童の割合 ・認められていると感じた児童の割合(児童アンケート) ・他の学年の友達と協力して取り組むことができたと感じた児童の割合(児童アンケート)	・自分の良さがわかる 72.9% ・友達の良さがわかる 91.7% ・自分が認められている 81.9% ・協力して取組めた 65.7%	・自分の良さがわかる 78% ・友達の良さがわかる 94% ・自分が認められている 85% ・協力して取組めた 75%	※昨年比 ・72.0 (-0.9) ・96.0 (+4.3) ・80.0 (-1.9) ・87.7 (+22.0)		「友達のよさがわかる」割合は、昨年度比で4ポイント増えている。今後も、「みたか発表会」に参加した児童へのメッセージを掲示する活動等、友達のよさを見つける機会を持つようにしていく。一方、「自分のよさがわかる」「認められている」は、1～2ポイント下がっている。友達より優れているところが「よさ」ととらえている児童もいる。よって、本人が気づかないところでも「よさ」が多くあるということを教職員が積極的に声に出して伝えていく。 総合的な学習の時間では、異学年のよさに気付く機会があるので、振り返りの時間等に互いのよさを伝え合う時間を持つようする。 2学期から階段の掲示板に道徳コーナーを設置する。授業で児童の思考の流れなどを掲示し、児童が後で振り返ることができるようにする。
【健やかな体】 生活習慣の基礎を培うとともに、児童の体力を向上させる。 自立した生活を目指した取組の充実	・基本的な生活習慣を確立させる。 ・体力・運動能力を向上させる。	○基本的な生活習慣定着のための保健指導を行うとともに、保護者啓発に取り組む。 ○体幹を鍛え、体の全体的なバランスを高めるために、「チャレンジ10」を体育や体育朝会の準備運動として行う。 ○体育朝会に体力の課題に即した、トレーニングを取り入れる。 ○体力づくりコーナーを設置する。	・基本的な生活習慣に関する肯定的評価の割合(児童アンケート) ・6時30分までに起床 ・朝食に野菜を食べる ・メディアを2時間以内 ・9時から10時までに就寝 ・体力テストを年2回実施し、4種目について、前回の記録を上回った児童 □握力 □上体起こし □長座体前屈 □ソフトボール投げ	・起床 72.9% ・朝食 81.3% ・メディア 68.8% ・就寝 79.2% □握力 □上体起こし □長座体前屈 59% □ソフトボール投げ	・起床 75% ・朝食 85% ・メディア 70% ・就寝 80% □握力 90% □上体起こし 69% □長座体前屈 78% □ソフトボール投げ 61%	・起床 78% ・朝食 72% ・メディア 72.5% ・就寝 74% ※R4 との比較 □握力 90% □上体起こし 63% □長座体前屈 80% □ソフトボール投げ 56%		生活習慣について 朝食はほぼ全員が食べているが野菜を食べている児童の割合が目標を下回った。野菜を取り入れる大切さについて、保健指導を実施したり、保健だよりでの家庭へ啓発したりしていく。 体力向上について、R5年度1回目とR4年度の結果を比較し、目標値を設定した。既に設定されていた長座体前屈については、目標達成しており、据え置きとした。今後、上体起こしとソフトボール投げの結果向上に向けて、体育の授業等の改善をしていきたい。
【信頼される学校】 保護者・地域からの信頼に応える。	・保護者や地域が協働しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。 ・働き方改革をすすめる。	○学校だより、学級通信、保健だより、classroom、HP等により、学校や児童の活動の様子を分かりやすく発信する。 ○保護者からの相談は、迅速かつ丁寧に対応し、報告・連絡・相談・確認を確実に行う。 ○会議は必ず終了時刻を設定して行う。	・学校満足度に関する肯定的評価の割合(保護者アンケート) ・働き方改革に対する満足度が80パーセント以上(職員アンケート)	学校満足度 保護者 97.8% (よく 50.0%) 職員 89% (よく 44.4%) (やや 44.4%)	学校満足度 保護者 100% (よく 70%) 職員 90%	学校満足度 保護者 97% (よく 51%) 職員 89% (よく 33.3%) (やや 55.6%)		学校の取組をタイムリーに発信し、保護者の理解を得る。また、保護者の声に耳を傾け、ニーズにあった取組を行う。 風通しの良い職員室づくりに努め、業務改善につながる取組を職員から吸い上げ、実行する。